

ポストコロナ時代における公開講座の運用事例

田中 雅章¹ 田村 禎章²

Email: m-tnk@yokkaichi-u.ac.jp

四日市大学 環境情報学部¹ ユマニテク短期大学²

◎Key Words : 公開講座、エクステンション・カレッジ、生涯学習

1. はじめに

新型コロナの流行が日本で社会生活に影響するようになったのは2020年の3月ごろからである。2020年3月に予定した講演会は中止になり、2020年度は大学の講義さえままならない状況になってしまい、2020年度の公開講座は全て中止となった。

2021年はICTを活用することによりオンラインで開講できる講座のみを実施することになった。現在、新型コロナの第7波の流行は2022年7月から始まり、予想を大きく上回る大流行になっている。それでも感染対策を行いながら対面形式の講座が復活している。本稿では2021年のオンライン講座、2022年前期のハイブリッド講座と復活した対面講座の実施結果と2019年の従来の講座とを比較した結果を報告する。

2. A大学における公開講座

A大学の公開講座の半数以上は語学コミュニケーションが中心である。その他にキャリアアップ、ライフサポートの3部門で構成されており、開講期間は春期が5～8月と秋期の10～1月の1年間に2回の実施である。

表1 講座の実施形態

実施形態	対面	ハイブリッド	オンライン
2019年度	○		
2021年度			○
2022年度春期	○	○	○
2022年度秋期	○		○

表2 講座実績

実施形態	講座数	のべ受講者数	講座回復率
2019年度	151	1,913	
春期	77	1,014	
秋期	74	899	
2021年度	54	421	35.8%
春期	29	215	37.7%
秋期	25	206	33.8%
2022年度	136	—	90.1%
春期	72	—	93.5%
秋期	64	—	86.5%

※ 2022年度の講座数は計画数

2019年度は前期に表2で示したように、81講座中77講座、後期に74講座の1年間で151講座を開講した。のべ受講者数は前期に1,014名、後期に899名で1年間で1,913名が受講した。男女比では男性34.7%、女性が65.3%と女性の方が多い。年代別では50代以上が70.1%を占めていた。申し込み方法はハガキ、FAX、Webと様々な方法が可能である。また、申込期間も前期は2月19日から4月3日までで、後期は7月23日から9月10日までと前期・後期ともに募集期間が長い。しかし、2020年度は新型コロナ禍のため全ての講座や講演会は中止となった。

2021年度は講師と受講者の健康と安全を確保するため、表1

で示したように、Zoomを利用したオンライン講座のみで運営を再開することになった。申し込みの受付方法がこれまでのハガキやFAXの受付が廃止され、Webのみである。さらに受付期間も4月1日から4月15日までと例年よりも募集期間が短縮された。例年の半数以下の36講座を計画したが、実施できたのは29講座で、受講生は215名であった。後期は37講座を計画したが、実施できたのは25講座で受講生は206名であった。申し込みの受付は前期と同様にWebのみである。受付期間は8月26日から9月9日までと前期と同様に短期間である。申し込み人数が5名未満の講座は不開講となるため、例年よりも不開講になった講座が多かった。

2022年の前期の実施形態は対面、条件付き対面（オンラインへ変更もある）とハイブリッド（対面とオンラインの併用）、オンラインのみの3種類の開講となった。計画した講座数は72講座で、2019年度春期実績の93.5%まで回復することができた。後期の実施形態は対面とオンラインのみである。ハイブリッド方式は講師の負担が大きく講師に不評だったため、実施しないことになった。計画した講座数は64講座で、2019年度秋期の実績の86.5%まで回復することができた。

3. 電話インタビューによる調査結果

2019年度の受講者名簿1,054名から無作為に352名を選び、2021年8月27日から9月1日の期間で電話インタビューを実施した。その内、120名と会話することができた。講座の申し込み行動を尋ねることができた。表3に筆者が実施した電話インタビューの結果を示す。今回申し込みなかった理由で最も多かったのは、新型コロナの影響で生活環境が変化し、公開講座を受講する時間がないが51名(42.5%)と最も多い。その他に通信環境がないので対面講座を希望する、希望する講座がないが、ほぼ同数の理由であった。しかし、オンライン受講が開講になったため、東京、兵庫、福岡などの遠方の受講者が10名いた。なお、遠方の受講者全員が語学コミュニケーション系である。遠方の受講者と電話インタビューでは、受講者の近在の大学で希望する語学講座を実施していないため、希望する語学の受講をあきらめていた。しかし、今回の取り組みのおかげで、遠方でも受講できるのはとてもありがたい。」との意見が得られた。

表3 受講者への電話インタビュー

回答内容	人数	割合
受講する時間がない	51	42.5%
対面講座を希望	26	21.7%
希望する講座がない	24	20.0%
検討中	12	10.0%
申込済み	7	5.8%

4. まとめ

大学の公開講座は地域に向けて学習の場を提供する社会貢献活動である。コロナ禍でも対策を講じて実施を模索した。ただ、受講者が減少した理由として、対面講座ができない、講座数の減少、オンライン講座の受講準備やPC操作を強いるためであると予想していた。しかし、電話インタビューの結果、新型コロナによる生活の変化で受講する時間が取れなくなったなどの生活環境の変化が主要因であることが示唆された。